

## 若狭の原発と「もんじゅ」の耐震安全性は？ 浜岡1・2号廃炉に続こう！ 耐震安全性なき原発を廃炉に！ 美浜1・2・3号を閉鎖せよ！



美浜2号炉ギロチン破断事故から18年

2月6日(金) 関西電力に申し入れ行動

午後6時から 関電本社で

敦賀半島の周りは、活断層だらけです。しかも、…  
活断層の上に、美浜原発(1, 2, 3号)、敦賀原発(1,  
2号)、そして「もんじゅ」が…そこは地震の空白地帯  
(最近数百年は地震がなく、歪みがたまっている)…  
原発を廃炉に追い込みましょう！



美浜原発( )  
海底B断層(11)  
野坂断層(10)



関電は、一応「連動」した場合の地震の大きさを評価したと言いますが、なぜか、未だにデータすら公表していません。データを公表すれば、評価の矛盾が暴露されるからなのでしょうか？

**関電社長が、「美浜原発1号炉は存続か廃炉かを今年11月までに判断」と、表明！**

関電は、2010年11月で40年が経過する美浜1号炉について、運転を継続するためには長

期の保守管理方針を今年11月下旬までに国へ提出し、認可を得る必要があるため、「できるだけ早い時期に(運転についての)方針をまとめたい」との考えを示しました。

美浜原発1号炉は、中部電力が廃炉を決めた浜岡原発1、2号炉よりも古く、規模も出力34

万キロワットと小規模です。同じ時期に建てられた日本原子力発電の敦賀原発1号炉も2010年度中には廃炉になる予定です。美浜原発でも、近くの海底や直下にも複数の活断層が走っており、マグニチュード7クラスの直下地震に襲われる危険性があります。関電に美浜1号の運転継続を断念させ、即刻の廃炉を要求していきましょう。また、美浜2号は18年前に細管ギロチン破断を起こしており、美浜3号も11名の死傷者がでる大事故を起こしました。これら3つの原発の安全管理は、未だに不十分であり、周辺住民に不安を抱かせています。なんとしても、美浜原発が大地震に見舞われる前に廃炉にしていかなければなりません。

## **2008年12月23日、中部電力は 浜岡原発1・2号廃炉と使用済核燃料中間 貯蔵施設の敷地内立地をセットで発表**

浜岡1・2号は運転開始から30年以上も経過した原子炉ですが、東海大地震が近い将来に起こる可能性が極めて高く、中部電力は原発の耐震「補強」工事を行ってきました。しかし、1・2号では、3000億円もの費用をかけた長期間の補強工事が必要で、1・2号を廃炉にして6号を増設する方が得策と判断したのです。

中部電力は浜岡3,4,5号に対して「1000ガルの地震に耐えられるように補強工事をした」と言いますが、本当に大丈夫なのでしょうか。実際、浜岡原発の耐震安全性に関するバックチェック審査では、いまだに「大丈夫」とは判断されていません。浜岡原発の直下で、中部電力の予想より浅いところで東海地震が起こる危険性があるのに、過小評価されています。東海地震はマグニチュード8クラスです。実際の地震動が予想の範囲内に収まる保証は全くないのです。

能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手宮城内陸地震などで明らかのように、浜岡に限らずどの原発でも、電力会社や国が想定した規

模をはるかに超える地震動に襲われる危険がますます高まっています。

阪神・淡路大震災のような規模、M7.3の直下地震がどこでも起こると考え、対策を立てなければなりません。いつどこでM7.3規模の地震が起きても不思議ではないのです。私たちは、M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖するよう強く求めます。

まずは、浜岡1・2号に続き、美浜1,2,3号炉の廃炉を求めて関電を追及していきます。美浜原発のように古くて事故続きの原発が一層地震に弱いことは明白です。地震に耐えられない全国の原発の閉鎖を共に求めていきましょう。

## **「原発施設内に中間貯蔵施設を建設する 方式」が全国各地に波及！？**

浜岡原発の1・2号炉には2007年度末現在約130トン(ウラン重量、中部電力ホームページ)の使用済み核燃料がプール貯蔵されており、炉内に計174トン、計約300トンがあります。国へ提出する廃炉計画ではこれらを施設外へ搬出することが前提になっているため、中部電力は、敷地内に700トン規模の乾式貯蔵施設を建て、2016年度の使用開始を目指すとしています。これは「金属キャスク」と呼ばれる鋼鉄製容器に使用済み核燃料を一時的に収納し、再処理施設への搬出まで保管する計画で、「中間貯蔵施設」と呼ばれています。この700トンもの貯蔵量は1・2号の約300トンをはるかに上回ります。3～5号には1250トンの貯蔵プール容量がありますが、すでに730トンが貯蔵中です。そこで、1・2号廃炉にかこつけて少し大きな中間貯蔵施設を敷地内に作ってしまおうというのです。こうしておけば貯蔵プールが満杯になっても中間貯蔵施設でしのげるという算段です。これを機に他の原発でも、中間貯蔵施設の敷地内立地が進むおそれがあります。

関電は現に、使用済み核燃料の中間貯蔵施設

の立地について、「基本的には県外」との従来方針を示しましたが、誘致に向けて美浜町から2004年に立地調査の要請を受けていることをふまえ、「原子力事業に対する理解を無視するわけにはいかないとの思いもある。それらを含めて具体的に考えていきたい」と県内立地に含みを残しています。廃炉を求めると共に、中間貯蔵施設立地計画にも反対していきましょう。

### 危険きわまりないプルサーマル計画

関電は、1月下旬にも高浜原発のプルサーマル計画に使うMOX燃料の製造を開始すると明らかにしました。フランスのメロックス工場で16体製造し、2ヶ月かけて海上輸送し、2010年度内のプルサーマル実施を目指しています。

関電は「当社のプルサーマル計画」についてホームページで次のように説明しています：「エネルギー資源の乏しいわが国では、将来にわたってエネルギーの安定供給を実現していくためには資源のリサイクルシステムを確立する必要があります。プルサーマルは、限りあるウラン資源を有効に利用し、エネルギーのリサイクル社会を切り開くための重要な技術です。」

しかし、これは全くの大ウソです。

プルサーマルは高価で、資源節約効果もほとんどなく、重大事故の危険を高めます。関電がリサイクルシステムと言っているのは高速増殖炉が実用化された場合の話であり、プルサーマルとは関係ありません。また、もんじゅの運転再開が再再度延期されたように、高速増殖炉実用化の見通しもありません。ウソと虚構の上にプルサーマル推進を主張しているのです。また、電力各社は六ヶ所再処理工場で回収されたプルトニウムは、大間原発や高速増殖炉開発のために譲渡する計画であり、電力会社自身の将来にわたるプルサーマル実施は示されていません。

大間原発では全炉心MOX燃料で運転することが計画されていますが、世界のどこでも安全性が実証されていない危険な代物なのです。関電が2010年度に実施したいとしているプルサーマル計画は、英仏再処理委託から出たプルトニウムを焼却するためのものです。ごまかしは許せません。プルサーマル計画を止め、原発・核燃料サイクル政策を転換させましょう。

来年度の原子力予算は4462億円にもなりません。もんじゅを含めた高速増殖炉開発関係にも400億円以上を計上しています。このような税金の無駄使いをやめさせ、原発・核燃料サイクル推進から脱原発を目指す方向へ転換させねばなりません。原子力予算大幅削減を実現させ、エネルギー消費削減社会の構築を目指すべきです。再生可能エネルギーを推進し、分散型電源やコジェネの普及で雇用を確保することが今こそ求められているのではないのでしょうか。

運転開始から30年以上経過した原発

各地の原発	運転開始	出力 (万KW)
原電・敦賀1号(福井)	70年 3月	35.7
関西・美浜1号(福井)	70年11月	34
東京・福第1・1号(福島)	71年 3月	46
関西・美浜2号(福井)	72年 7月	50
中国・島根1号(島根)	74年 3月	46
東京・福第1・2号(福島)	74年 7月	78.4
関西・高浜1号(福井)	74年11月	82.6
九州・玄海1号(佐賀)	75年10月	55.9
関西・高浜2号(福井)	75年11月	82.6
中部・浜岡1号(静岡)	76年 3月	54
東京・福第1・3号(福島)	76年 3月	78.4
関西・美浜3号(福井)	76年12月	82.6
四国・伊方1号(愛媛)	77年 9月	56.6
東京・福第1・5号(福島)	78年 4月	78.4
東京・福第1・4号(福島)	78年10月	78.4
原電・東海第2(茨城)	78年11月	110
中部・浜岡2号(静岡)	78年11月	84

(原電は、日本原子力発電株式会社のこと)

今後の予定

2月6日(金) 午後6時～

## 美浜原発を廃炉に！プルサーマル計画を止めよ！ 関電への申し入れ行動

場所：関西電力本社 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車7分

連絡先：072-939-5660 くぼ



3月29日(日) 午後1時半～4時半 (予定)

## 米スリーマイル島原発事故30年の集い 原子力立国計画の幻想と現実

--- もんじゅ、プルサーマル、地震と廃炉 (仮題)

主催 若狭連帯行動ネットワーク

### 編集後記

- ・ 2009年がスタートして24日が過ぎました。ニュースを早く発行しなければと思いながらも、検討すべきことが多くあり、なかなか発行できませんでした。今年もがんばりますので、よろしく。
- ・ 昨年は、浜岡1・2号炉の廃炉の報道が伝わり、いよいよ廃炉を迎える時期がきたのだと痛感しています。敦賀1号は、2010年に廃炉予定です。美浜1・2・3号の廃炉の闘いも重要となっています。
- ・ 70年代の原発の耐震設計では、原発周辺には、活断層はない。活断層に見える断層は、もう動かない断層であるとか、断層の長さを小さくして、原発には大きな地震が襲わないかのように宣伝してきました。しかし、14年前の、阪神淡路大震災以降、次々と原発周辺で、起こらないと言われた活断層地震が原発を襲い、原発が緊急停止しています。宮城県の女川原発、石川県の志賀原発、そして、新潟県の柏崎刈羽原発です。そして、ついに東海地震が起こると言われる浜岡原発では、これまでの原発耐震性では危ないということで、廃炉を決めました。

敦賀半島にある原発周辺も、次々と活断層が見つかり、大きな地震が起こることもあることを示唆し始めています。なんとしても美浜原発を廃炉に追い込んでいかねばなりません。

今年もよろしくをお願いします。

きよ子